



MINI **<26号>**
1979年 3月10日発行 ￥100 円50

〈女と男〉のミニ雑誌〈あごらミニ〉 ●何でも言える
●何でも書ける ●小さな〈ひろば〉=AGORA・〈あごら〉
●あなたの声を待ってます。みんなてつくる〈あごら〉

地方選こそ

くやしくないですか？ ロッキード、グラマン……。
迫りませんか？ 保障も、平等も。

いつもいつも胸の中にたぎっていることを、痛烈に晴らすチャンスが近づこうとしています。四月、統一地方選。

いまこそ、女の出番です。

女の心を、女の声を、ダイレクトに伝える女の代表を、一人でも多く立てたい。出したい。

男しか立候補者がいなければ、せめて一番女の気持ちかわかってくれる人、女の声を伝える人を見さわめましょう。

もう、だまされまい。
チャンス逃がすまい。

「権利の上に眠るな」と、市川房枝さんは叫び続けておられます。

編集部では、都知事三候補を追い、声をテープに納めました。この「公言」が実行されるか、どなたが当選なさっても、追い続けるつもりです。



女の出番

三候補のコメントを、一切の注釈をつけず、訪問順にそのままのせました。十五分のアポイントメントをとり、同じ質問をぶつけました。十五分の予定でしたが、麻生さん二十分、太田さん五十分、十五分では困る、十分にして」と秘書の方に断わられた鈴木さんも、二十分話して下さいました。有権者は、女性のほうが多いのです。

各地で質問し、それを公表してみませんか。衣の下から、意外にホンネが見えるものと発見しました。

平凡な働く母、山本かなえさんも東村山市で立ちます。

議員で「あごら」の会員の方は、小沢遼子さんはほかおられますが、平凡な「あごら」の会員が立候補するのは初めてのことです。なぜ彼女が「立たなくては」と思いつめるようになったのか、無組織・無所属の彼女が、どんなたたかい方をしようとしているのか、そのルポものめました。

(R)

今月のなかみ

〈東京事務局編集〉

表紙のことば	インタビュー	地方選こそ	女の出番	編集部
意ル	見ポ	都知事三候補にホンネを聞く	結婚前の腰かけ就職を改めなくては	編集部 1
おひろ	知ら	甘えを捨てて働け、母性は十分保障する	太田薫	2
せ	ば	ご婦人は、やさしく、あたたかく、弱く	鈴木俊一	3
		東村山市議選に立つ山本かなえさん	編集部	4
		もっと具体的な要求を	梶谷典子	5
		久野さんの意見に反論	浅野美和子	6
		「あごら」は「さくのない広場」なのでは？	館森 静子	6
		各地のもよおし、女の講座・女のつどい		7
				8

婦人民主クラブ歴史講座 卑弥呼からウーマンリブまで (後期)

ー日本史の中の女性ー

3月24日	働く女たちの系譜 1930年代を中心に(1)	山代 巴	6月23日	戦争と女 ファシズムの嵐の中で	吉見周子
4月28日	働く女たちの系譜 (2)	山代 巴	7月28日	近代100年を通して	もろさわようこ
5月26日	植民地と女	森崎和江			

ところ 千駄ヶ谷区民会館 (会場変更の場合あり)
会費 13回通し券 8,000円 1回 700円

婦人民主クラブ 東京都渋谷区神宮前3-31-18 電話 (402) 3244

結婚前の腰かけ就職を改めなくては——麻生良方さん

●女、と聞いて浮かぶイメージは？

女、ということばはいやですね。よくは女性ということばを使いますよ。

女、と聞いても別に何も浮かばないな。女って、別に特別のものじゃないから。

●女性観はないのですか？

女性観？ うーん、人生観と同じでむずかしいですね。女性観っていうと、どうしても身近にいる女性から出発することになる。多くの一番身近にいる女性といえど女房ですが、そうすると、いろんな問題があるな。うちの女房は外に出るのが好きじゃないので、もう少し外へ出てほしいな、と思うし……。

●国際婦人年をご存じですか？

国際婦人デー？ あ、国際婦人年ですか？ 知ってます。ええと、あれは何年でしたかね。いろんな方が日本から会議に出席なさったんじゃないですか。日本の女性是对立していたというふうなうわさを聞きましたがね。これはあくまでもうわさですがね。

●どんなことが行なわれたか、ご存じですか？

はつきり記憶してはおりませんが、要するに婦人の地位の向上を、国際的に討論したわけでしょう。たしか、人種差別の問題もふくまれていたと思いますが。

●かなりよくご存じですね。

ぼくは評論家でしたからね。当時、TVなどにも女の評論家の方たちと一緒に出ましたのでね、おぼえているわけですが。なんでも女の対立がかなりあって、

正規のルートからいらした方と、ご随意にいらした方が対立なさったとか。おかしいことですね。

●マスコミがそう書き立てただけで、別に対立したわけではありません。

そういううわさを聞いた、と言っただけですよ。あくまでもうわさです。ぼくは行なったわけではないから。

しかし、二通りの参加のルートがあるというのはおかしいと思います。行きた人は行けるようにしたほうがいい。

●民間の会議は誰でも参加できますが、国連の会議には誰でも参加するわけにはいきませんか？ 国家間の正式な会議なのですから……。

だから、それにも誰でも参加できるようにして形を一本にするのがいいと言っているのです。(国連の仕組みをご存じないらしい)

●そのとき決められた「世界行動計画」に基づいて各国はそれぞれの国情にに応じ、行動計画をつくったわけですが、ご存じですか？

さあ、知りませんね。自民党がつくったようですが。

●国と別に、各自治体もつくることになつており、東京都の行動計画もつくられていてるのですか？

都の？ 知りません。どんなもんですか？

●(説明する)

(身乗り出して)全部大賛成ですね。ぼくは女性が全部外に出て働く必要があ

るとは思っていない。しかし、そうしたい方ができるように、保障はすべきだと思います。女性の側も、結婚までのお小づかいをとるための就職という現状が問題で、あれが一番問題だと思いますよ。あれでは女性を採用できないでしょう。女性のそうした意識が変わらなければね。ぼくは学歴も取り払うべきだと思つてますがね。

●たしかに結婚前の就職が多いのは現実ですが、働き続けたくても続けられないのが現状です。性別役割分業がある限り……。

性別役割分業？ なんです、そんな専門用語を使わないでくださいよ、ああ、家事は女の役割りという社会通念ですか。ぼくは持つていません。そういう問題は、男であろうと女であろうと、自分で取り組んでいくべきでしょう。

●副知事は女性の登用については？

登用するとかしないとか、まだ全然考えていません。実際に入つてみて、内部の有能な人を登用していきます。ぼくは一切の公約をしません。都には、ぼくはひとりて入りますよ、誰かを引き連れて入るようなことはしませんよ。

●都の婦人会館の建設計画については？

それが女性のために役に立つものだったら、結構ですね。お遊びのためのものなら民間で十分でしょう。そこへ行けば女性解放の歴史から何かわかるという資料が手に入るといったものなら、予算措置を講じますよ。

●雇用平等法をご存じですか？

ああ、知ってます。知ってます。それは知ってます。しかし労働法についてもそうですが、法律があっても実体は別ですよ。問題は行政だと思つています。なんでも法律さえつくればいいという考え方には反対ですね。法律はなるべくないほうがいいと思いますよ。

●しかし、これは、具体的に実効のある「男女雇用平等委員会」をつくるという非常に現実的なものなのですか？

●(説明)

ほう、そういうものがあるのですか。雇用公正委員会というわけですか。は、は、なるほど。そういう資料をどんな見せてくださいよ。ぼくらはわからないうのだから。(しきりに首を振る)

●さつき、雇用平等法は知ってる、とおっしゃいましたが。

いや、あれは労働基準法だと思つてたんですよ。

●新聞の一面には、大きく出たのですが、新聞！ 新聞なんて、いちいち覚えておられませんか。自分のことだつて覚えておられないんだから。とにかくどんどん資料を見せてくださいよ。

●どんな女性がお好きですか？

ええ？ (両手を大きくひろげ、ギブアップのポーズ) ノーコメント。

●ノー・コメントですか？

(ふたたび、同じポーズ、大笑い)

なかなかできんでしようねえ。男女同
権なら男女同権のように働かにやいけん

るんじゃないかと。だからまじめな婦人

●しかし法律がなければたたかえない。

それが一番いいと思いますねえ。

「婦人は、やさしく、あたたかく、弱く」——鈴木俊一さん

●女、と聞いて浮かぶイメージは？

女って言えば男ってことなんでしょね。……私は女ってことば使わないですよ。婦人とか女性とか女の方って言いますかな。ご婦人と言えば、やはりやさしさとかね、あたたかさとかをまず思いいますね。そして、ある意味のやわらかさっていうか、弱さね。

●国際婦人年をご存じですか？

はいはい。

●どんなことがあつたかおぼえておいてですか？

あれは一九七五年でしたかな。日本も国内行動様式っていうんですか、騒がれましたね。政府なんかも、いろんな審議会とか調査会なんかにご婦人の方を一割は入れるようにとか言ってるんですが、なかなかそれが実現してない。私はまあ都知事にさしてもらったら、できるだけたくさんの方に……。それだけでなく、局長とか部長とか課長とか、そういう行政の場にも、適材のご婦人がいらつしやればもちろん登用することを考えていきたいと思ひます。

●できるだけたくさんとのことですが、何割ぐらいをお考えですか？

まあその……。フイティフイティでいいんでしょうが、実際には十人なら三人とか、少なくとも二人とか、また審議会の性格によっては、婦人問題についてなどご婦人のほうが多くてもいいものがあると思うんですね。

●東京都の行動計画をご存じですか？

ええ、都の行動計画もできてるようですね。私はまだ具体的には押さえていませんが。

●あなたは何に重点を置けますか？

審議会への参加数をふやすことは、申し上げたとおりです。あとは、乳がんの検診なんかは女性特有の病気で、特別に扱うのもたしかに一つの行き方だと思ひますね。それから労働権の確立、これは雇用問題はいま非常に重要な問題になっていきます。積極的にすすめていかねければならないでしょう。

●具体的にはどういうことを？

第三次産業にはご婦人が進出しやすいのではないでしょうか。スーパーなどの販売店員とかいろいろございましょう。東京なんかでは第三次産業がいよいよ中心になってきますから、ご婦人の職場はそういうところになるでしょう。

●しかし、現実には働きたくても働けないところの問題があるわけですが。

保育所はだんだん整備されてきたと思ひますけど、さらに整備・運用も考えたい。働く職場がないというのは、景気浮場の考えませんと。基本的には、六〇程度の安定成長を持続していくことが必要ですね。そうしなければ自然と雇用の場も安定的に伸びていくと思ひますね。

●副知事女性説はどうお考えですか？

副知事に限らず、局長・部長・課長、それぞれご婦人のほうが適当であるというポストもございまして、ご婦人向きのないポストでも適格者があればやって頂

こうと思ひています。副知事は三人ということになってますけど、美濃部さんの一番最初の時は一人でした。かりに副知事一人ということになりますと、ご婦人が適当かどうかという場合もあると思ひます。二人の時には一人男性、一人女性ということも考えられないことはないのですが、実際問題としては三人の場合でしょうね。しかし私はできるだけ行政機構を簡素化していこうという考えを持っていきますから、まだ確定的には考えていないのですけれどもね。もし三人置くという結論になれば、ご婦人の適材の人がおられれば、そういうことも考えていと思ひます。ご婦人の担当する職分を担当して頂くということ。

●都の婦人会館の建設については？

婦人会館の性格が私よくわからないんですがね。婦人専用の会館という考え方が成り立つのかという気もするんですがね。フエスティバル・ホールとか文化会館とかオペラハウスなら男性女性を問わず利用できますね。どういうアイデアで美濃部さんがあれを始めたのか、ちよつとわからないんですけどね。よく検討してみないと、私はまだ直にという気にはなつてないんです。率直に申しまして。

●雇用平等法についてご存じですか？

うん？ ああ、男女平等ね……。あんまり形式的平等っていうのはどうでしょうかね。男性と女性とは体格的にも精神的にも……違いはないのかもしれませんが、

全く機械的に平等というのは無理ではございせんか。仕事の性格上平等にしたくもできないものもあると思ひますよ。たとえば重労働であるとか、製造業務なんかは大変なものもあるという気がしますがね。そんなものでもできるという切つてしまえばできないことはないかもしれませんが、ただち初めに言いましたような特色を持つてゐるご婦人なんですから完全平等というわけにはいかない。実質的には平等でも、機械的・形式的平等はできないと思ひます。

●男は外、女は内という考え方は？

一般的にはご婦人は家庭にいたほうがいいと思ひますがね、ご婦人にもよりけりて、社会で活動なさる方はそれで結構ですが、一般的に言いますと、ては男性が家に引つ込んで、ご婦人が外に出るということは、ばくの年代からかしらんけど抵抗を感じますな。

●どんな女性がお好きですか？

やつぱりたくましい女性よりも、やさしい、あたたかみのあるやわらかい女性のほうが好きですな。

●女の人に一番望むことは？

ご婦人は、ご婦人らしさという特色を持つていて頂きたい。ご婦人の方が男性と同じようになられちゃったのではおもしろくないと思ひます。男性と女性というのはそれぞれ特色があつてこそ陰と陽でうまくいくんで、全部陽になつちゃうんでは人間社会は平和になつていかないんじゃないかと思ひます。



目下大苦戦、でも、 女の声伝えたい。

東村山市議に立つ

〈あごら武蔵野〉の山本かなえさん

女の状況を変えたいと毎日苦闘する中で、最終的にはやっぱり行政と立法の場に女をどしどし送り込まなければ……と、ため息まじりに痛感することが多いのです。だけど、実際に誰が立つかということになると、みんな尻込みしてしまいう。そんな中で、やっと、市議選に立つという人が現われました。

山本かなえさん。一昨年の第一回あごら全国大会の実行委員長として、縁の下の力持ちの役を果たした人。蚊トンボみたいに細い姿を、大会に出席した方はご記憶でしょう。

ところで職もあり、子もあり、夫もあり、市民運動にも情熱を注ぎ、あの超多忙の人がよくも思いついたもの。ともかくその事務所をたずねてみました。

東京西郊、東村山市、「東村山かわら版」事務所。かなえさんが始めた地域ミニコミの事務所には、「かわら版」のスタッフ二人と「まちづくり自主講座」の準備中とかで、原稿を作ったりチラシの

枚数を数えたり。紙と本と貼り紙に囲まれた、高校か大学のクラブ部屋といった雰囲気。壁にはマジックで大きく書かれた紙が貼ってありました。

「一つの橋の建設が、もしそこに働く人の意識を豊かにしないものならば、橋は建設されぬがよい。市民は従前どおり泳ぐか渡し船に乗るかして川を渡っていればよい。フランチ・ファノン」

「次の物が足りません。食器、文房具類（なんでも）、タオル、板、封筒類、本棚、お金……」

*

——どうして立候補したの？

「ごくあたりまえの主婦だったでしょう。『まちづくり』に自分がかかわるとか参加できるとは思わなかった。それがかわらざるを得なくなったのは、子どもが生まれてからね。働き続けるためには子どもを保育所へ預けなくてはならないわね。でも保育所そのものが少なく、市は私立や無認可におんぶの状態。そこではじめて市政というものを考えるようになったのね。納税者としての自覚ができたというか、市政の仕組みの一つ一つに関心を持つようになった……」

——それはよくわかるなあ。問題意識を持つと、いろんなことが見えてくるものね。

で、保育環境をよくする運動を始めたんだけど、その中でわかった一番大きな問題は「女は家庭にいるべし」というのが行政の本音だということ。沈黙・無関心・行政不信のままでは、いつまでたってもいい環境はできないから、自分たち

の言いたいことを訴えていこうと、「東村山かわら版」をつくり始めたわけ。

——そして、誰か議員を、ということになったのね。

結局、私におハチが回ってきて。でも地盤もバック団体もないし、保育所運動や職場の仲間、あごらや「かわら版」、隣近所の人たちだけが支えて、雲をつかむようなの。

——何票あれば入るの？

市議の定員が三十人、立候補が四十人とうわさされていて、千二百票がメドなのね。でも、最後の十二人の中にはやりそう。でも、やると決めたからにはやるつもり。参謀も女だし、応援団もほとんど女。女だけじゃやっぱりダメだったなんて言わせたくない……。しかし、動き出してみて、きびしいアとつくづくわかったわ。隣の保谷市議選では一票差で当落が決まったんで。五票ぐらいの差で当落がわかれるのはザラだって言われて、とにかくいま、できる限りの人に会って話してるの。

*

37歳、主婦兼母兼薬剤師、八つの撰君と五つの愛ちゃんの手を引いて、いつも「走って」いるかなえさん。一五九センチ、四〇キロの細いからだで、よくも体力が続くと感心しているが、口先だけのことは決して言わない行動の人、きつと苦難を乗り越えるでしょう。平凡な女のあたたかさをいっぱい持ち、だからこそ燃えている人。こんな「女の仲間」が、もつともっと全国各地で立ってくれないかなアと、つくづく思いました。（朋）



もつと具体的な要求を

労基研の報告に

関連して

労働基準法研究会の女子関係の報告に對する批判を見聞きして、どうしても気になる三点について意見を述べさせていただきます。

1、報告が保護規定即時全廃を提案しているかのように言われていること

保護規定廃止がきまったかのような印象が強まり、それをねらっている経営側をかえって利することになっているのではないのでしょうか。

報告書自体は、社会的状況を考慮して必要な保護はすべきだと言っているのですから、働く側としてはむしろそこを利用したほうがいいと思います。時間外労働や深夜残業は男女とも望ましくない。男女が同じように働けるような条件整備をはかるべきだ、家庭責任は男女双方のものだと言っていることも大いに宣伝したいところです。

ただ報告書反対を言うのではなく、「こういう社会的条件からしてこれだけの保護は必要」「これだけの条件整備ができていないうちはこの保護ははずすな」という

具体的な要求を出すべきではないでしょうか。

2、女の中に「保護派と平等派」「エリート女と一般女性」というような決定的な対立があるように言われていること

確かに保護を強調する人と平等を強調する人はありますが、平等を強調する人も保護規定即時全廃を望むわけではなく、保護を強調する人も社会的条件が変われば保護規定を変えてもよいと思うのが普通でしょう。話し合いを深め、できるだけの力を合わせて行きましょう。

いわゆるエリート女と一般女性の間には今のところ逆の方向の要求がありますが、職種・職場ごとに保護規定のプラスマイナスを検討し、はずしたほうがよいところだけは必ずということは不可能ではないはずで、保護規定緩和によって改定決定部門や情報部門の女をふやすことは、その部門の女たちにとってだけでなく、女全体にとってプラスになることでしょう。敵対関係にある多数対少数という捉え方をしているのではないかと思います。3、保護は差別と無関係であるかのように言われていること

いま保護規定を全廃すれば、多くの働く女はかえって不利な状態に置かれることになりましたから、さしあたっては平等を守るために保護が必要だと言えます。また、差別の原因はいろいろあつて、保護だけが差別をもたらすものでないことは確かです。

が、保護は差別をもたらします。保護規定は、ひとりひとりの意思にか

かわりなく、性別を理由として行動を制限するものです（直接拘束を受けるのは雇う側ですが、結果として働く側も拘束されます）。これはあきらかに性差別そのものです。

働く女としては、行動を制限する保護でなく、のびのびと働けるから安心して母性としての行動を選べるような保障を要求すべきでしょう。

また、経営側は保護しなければならぬ女を男と同じようにには使いたがりません。したがって、実際問題として保護は差別の原因となります。これに対して、ただ資本の論理であるとして攻撃するだけでなく、各職場でどうたたかうべきか具体的な作戦をたてなければいけないと思います。

本当はほかの理由で差別しているのに、保護規定があるおかげでそれが差別の口実として利用されることもよくありますが、そうした場合も具体的に反論して行くことが必要でしょう。

政府側は、かなり急いで労基法「改正」の作業をすすめるようとしています。働く側はもっともつと説得力ある具体的な要求を強く打ち出すべきではないでしょうか。（梶谷典子）

「21号を拝見して」の

久野綾子さんに

——言葉というものはこんなにも逆の効果を生むものか——という、絶望に近い思いを抱いたのは私だけでしょうか。

あごら東海での座談会の記録——半白

立主婦は考える——が久野さんのように読まれようとは考えもみませんでした。「おんなの反逆」誌を出して颯爽たるリブの旗手・カッコいい独身の有職女性である久野さんを知らない人がこの文を読んだら、「かわいそうなひがんだハイミス」というイメージを持つのではないのでしょうか。

あごらは柵のないひろばですから、「すてきな奥様」も、男なみに職業をもつてがんばっている人も集まって来ます。もちろん「離婚した人も、子どもがほしくてできない人も身障者も未婚の母」も集まります。「例外」は一人もありません。ただ「女解放」という合言葉だけがみんなを結びつけているのです。

そんな中で、たまたまあごら東海の例会には、フルタイムの仕事をもたない、「主婦」が集まりやすいため、話題が自然にそういう自分たちの身の上と及ぶのはやむをえないことだといえましょう。

わたしたちが決して今の状態に満足しているのではないことは、これまでのミニ10号や78年6月号を併せて読んでいただければわかる筈です。「カッコよい」どころか「結婚」という決定的なマイナスを抱え込んでしまったために、泥沼から這い上がろうとして、びたすらカッコ悪くあがいているのです。そして、そのあがきそのものを自己評価して「半自立」と言っただけです。

それをどうして「理想的な妻の座」だの「例外が入り込む余地がない」だのと言われるのでしょうか。この言葉にこもる皮肉の意味は「理想的な」しあわせ」な

主婦は発言する資格がないから黙っていろ、ということでしょうか。それこそ「ひがみ」の仮面をかぶった有職女性の思い上がり、主婦切り捨て論に外なりません。「妻の座」は失業の座です。働く権利を否定された女のやむなく座る席です。「身障者」その他にもっとも近い席です。たまたま話がそこに及ばなかったからといって、「思いやり」に欠けると言われる覚えはありません。「半自立主婦」が泥沼にあがく泥の臭いを嗅ぎとってはいいと思いました。(あごら東海 浅野美和子)

あごらは「さく」のない広場」なのでは？

あごらミニ発行のたびに賛否両論は結構ですが、簡単に「あごら」そのものに疑問を感じる「なんて言ってほしくない。少しのちがいをとりあげて、排斥するような偏狭さは捨ててほしいのです。」(あごら)の魅力は文字通り「さくのない広場」で、どんな人でも正直に言いたいことを言える所ではないですか？ 広汎な主張を受け入れ、運動を大きく統一する方向性、(あごら)は一つの組織になつてしまわずに、お世話係であつてほしい。一人一人の女たち、男たちが主役で、交流しあえる場であつてほしいと思う。

私は教師なので主婦の方の発言など読んでもの足りなく思うことは正直ありますが、「つまらない」と感じたことは今までのミニで一回もない。それぞれに勉強させられます。働く女と主婦の接点は、私にとっていつでも解決のつかない問

題で、主婦と連帯したい、したい、という思いは強いのですが、一方、私自身は夫に養われる立場というものは考えられないし、経済的に自立しない女が精神的に自立しているといつても、砂の上のお城だと思つて、家事労働を社会的に評価すべきかというところでもない。育児は別にして、夫のような大の大人が世話を必要とする人間か？ というように、どうしても主婦の存在そのものを否定する方に考えがいつてしまうのです。自分が否定されるのは誰しもいやだろうから、主婦の方の前ではあからさまに言えないのですが、自分が否定されるべき主婦であることを意識して、主婦からぬかせないでいる方には本当にどんな助力でもしてあげたい気持ですが、やはり主婦の方は主婦の存在価値を主張したいでしょうね。私は周囲の友人たちほとんど多くが主婦で、いったいそれらの主婦たちはどう対したらよいものか？ とも思っています。

育休に入つてみて、新聞を読む暇もないようなあくせくした共働き生活は、どうも人間の生活とはいえないな、と感じます。となりの主婦は「家族のため、というのではなく、自分自身の時間がほしいから働きに出ない」と言う。「ごもつとも！」と思うが、やはり夫にだけ働かせるなんて、養われるなんて、私にはできない。しかしこんなめざめた主婦、(あごら)で見かける主婦の方たちのような主婦がどんどんふえていくところに歴史のダイナミズムを感じ、心強いのです。(館盛静子)

各地のあごら 拠点だより

あごら阪神

去年の春、発足当時は、五人のメンバーでしたが、その後ふえて八人です。主婦であつても、現在の性別分業に不満を持ち、女性解放を期待している者ばかり。こしはらくホーボワールを勉強しています。素人ばかりが顔をつき合せて、という感じ。(あごら京都)とも一度一緒に集まりました、と話し合っています。

あごら京都

一月例会は、新年会をかねて開かれました。シャンバラに集まったのは、初めてという人もいた。この女たちの空間が、経済的に維持できないのは惜しいと思います。(ミニ23号)の合評会。ミニを編集してみても大変だったけど、よい体験であつた。という意見あり。三月例会は、BOCの責任者 斉藤千代さんを迎えて、「女にとって働くこと」の講演です。

あごら九州

福岡市立婦人会館主催で、53年度福岡市婦人団体のつどい・団体活動発表会・三代表グループの一つに(あごら九州)が選ばれました。「あごら」本誌、ミニ、BOCのことなど発表する予定。二月二四日です。初めの頃は、「あごらちゃー！何ですな!？」と、うさんくさそうに応待して、使用時間を超過しようものならガ

ミガミ叱つていた同会館、やつと(あごら九州)の労が実りました。

あごら札幌

一月例会は、新しい人も含めて、九名の出席者。自己紹介から始まって、労基法研究会報告の討論。母性保護という平等と対立するように感じられるが、人権の保障というところへかたをするのが自然。その意味で、ミニが、「母性保障」ということばを使っているのが、よかった。二月例会は、「あごら」十九号の読書会。国沢静子さんの「反母性論」をやりたいたいという意見があります。

あごら京王

立川市の婦人グループ助成金を申請しましたら、許可がきて、一万円が交付されました。あごら京王は、発足以来、老人問題を勉強してきたので、ここで、老人問題研究家の二瓶万代子さんを講師に、ささやかな講演会を開きます。三月十日(土)午後六時。場所は、あごら読書室です。老後の問題は、ひとごとではなく、また女性解放とも深いつながりを持っているはず。ぜひおでかけ下さい。

山本かなえさんを支援する

あごら有志より 私たちの手で一人でも多くの女性議員を、
東村山市議選で悪戦苦闘中の山本かなえさんにカンパをお願いします。百円でも二百円でも大歓迎ノ口座名は、八千代信用金庫 東村山支店 二二〇〇一九四八〇 瀬戸くるみ

〈女のつどい・女の講座〉

日	時	テ	マ	会	場
3月8日(木)	10:00~12:00	産婆の学校 〈ホビット村学校〉 (4月いっぱいまで第1、第2木曜と第3月曜。1人400円、カップルで600円)		ホビット村学校	03-332-1187
	18:00~	鉄連の7人とともに仕事差別、賃金差別と闘う会		中島法律事務所	03-350-6082
10日(土)	13:00~15:00	政党に聞く「自民党の婦人のための政策は」出席 山口シズエ、石原しげる〈国際婦人年をきっかけとして行動する女たちの会〉		自民党本部	
	13:30~17:00	「アジアの女たちの会」結成2周年集会——3・8国際婦人デーによせて——参加費500円〈アジアの女たちの会〉		東京会館ホール (田町駅東口前)	
	18:30~	「女が老いるということ」講師 二瓶万代子 〈あごら京王・例会〉		あごら読書室	03-354-9014
	19:00~	女と男の井戸端会議 〈ホビット村学校〉		ホビット村学校	
13日(火)	18:15~19:45	ヨガ教室 〈独身婦人連盟〉 (問い合わせ 308-6187 平松)		すべーすJORA	03-203-6022
15日(木)	10:00~12:00	産婆の学校 〈ホビット村学校〉		ホビット村学校	
	18:00~	鉄連の7人とともに仕事差別、賃金差別と闘う会・学習会		中島法律事務所	
	18:00~	刑法改悪に反対する婦人会議		〃	
16日(金)	18:00~	労働分科会 〈行動する女たちの会〉		〃	
17日(土)	19:00~10:30	女のパーティー 〈まいにち大工〉		すべーすJORA	
	13:00~	「主婦の再就職は可能か」斉藤千代さんを囲んで 〈あごら東海・例会〉		名古屋市婦人会館	052-331-5288
18日(日)	12:00~	産婆の学校 〈ホビット村学校〉		ホビット村学校	
	13:30~	「主婦の再就職はいかにしたら可能か」講師 斉藤千代〈あごら京都・例会〉		京都上京区YWCA	
	18:30~	冒険少女クラブVOL2「女のアフリカひとり歩きささぎま」(冒険少女クラブ)		すべーすJORA	
	13:00~16:00	日本女性学研究会・会員懇談会		京大会館	
20日(火)	18:15~19:45	ヨガ教室 〈独身婦人連盟〉		すべーすJORA	
23日(金)	18:30~	教育分科会 〈行動する女たちの会〉		中島法律事務所	
24日(土)	14:00~	あごら九州・例会		福岡市婦人会館	092-712-2662
25日(日)	13:00~16:30	結婚の意味を問う継続討論 藤村 哲		豊島振興会館	
	18:30~21:00	「あごら18号・19号のティーチ・インを読んで」〈あごら札幌・例会〉		ひらひら	
26日(月)	18:30~	労働分科会 〈行動する女たちの会〉		中島法律事務所	
27日(火)	18:15~19:45	ヨガ教室 〈独身婦人連盟〉		すべーすJORA	
29日(木)	18:30~	あごら北東京・例会		婦人協同法律事務所	03-985-3308
4月1日(日)		あごらミニ5月号編集会議 〈あごら京都〉			
	13:00~16:00	「東洋における家族制度」講師 精華女子大学学長 深作光貝氏 〈日本女性学研究会〉		京大会館	
14日(土)	13:00~16:00	「日本史における女性」講師 京都大学教授 上田正昭氏 〈日本女性学研究会〉		京大会館	
	19:00~	女と男の井戸端会議 〈ホビット村学校〉		ホビット村学校	
15日(日)		あごらミニ5月号編集会議 〈あごら京都〉			
21日(土)	13:30~15:00	集会「技術・家庭科の“相互乗入れ”をどう実践するか」〈家庭科の男女共修をすすめる会〉		婦選会館	03-370-0238
	15:30~	総会 〈家庭科の男女共修をすすめる会〉		婦選会館	
	19:30~22:30	女のパーティー 〈まいにち大工〉		すべーすJORA	
29日(日)	13:00~16:00	「仏教における女性の地位」講師 光華女子大学教授 道端良秀氏 「仏教の女性観——鎌倉浄土教を中心として——」報告者 原 淳子 〈日本女性学研究会〉		京大会館	

〔編集後記〕 あれはダメ、これはまだまた……などと見物席で評論するのはやめたい。「私ならこうする」と思うことがあれば、からだてで示して行こう。——これが「あごら」の基本方針です。「どうせダメ」と、早々と非難しがちな地方選ですが、私たちの味方を一人でも多く送り込み、私たちの声を反映させたい。これこそがデモにもまさる効果的なたたかい方ではないかと思えます。あえて選挙特集号にしました。(C)

あごら旭川	旭川市神楽岡一条五丁目3 田代慶子 ☎016666556237 〒07811
あごら札幌	岩見沢市九条西三丁目 山口里子 ☎01262446772 〒068
あごら北東京	川口市芝北町3413 宗久知恵子 ☎048226550241 〒332
あごら武蔵野	小平市小川町176386 丹羽雅代 ☎0423436749 〒187
あごら京王	府中市晴見町321 関 和子 ☎0423624705 〒183
あごら神奈川	神奈川県厚木市厚木8011 沼田千恵子 ☎04622216516 〒243
あごら東海	名古屋市緑区大高町伊賀殿107 高橋ますみ ☎0526224926 〒459
あごら京都	京都市左京区北白川久保田町364 塚崎美和子 ☎0757914623 〒606
あごら阪神	尼崎市武庫之荘366 木沢みすず ☎064315376 〒661
あごら九州	福岡市西区笹丘246 小島豊子 ☎09252177624 〒810

各地のあごら連絡先